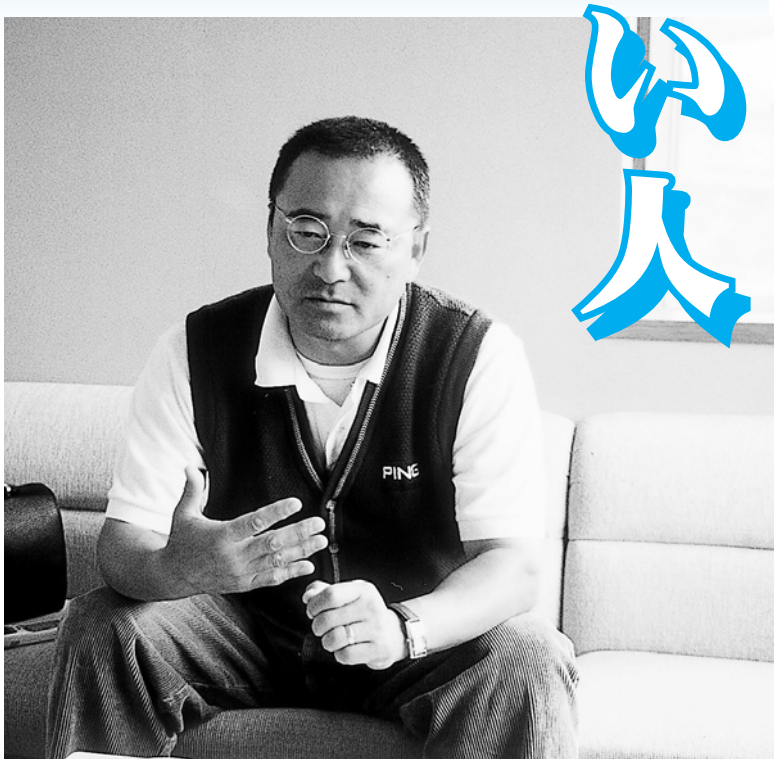
夢追い人

自然の色合いこそが、人を『癒す』もの。

（株）添島勲商店

代表取締役社長　佐々木　徹さん



大川家具、有田焼、琉球ガラスなど地場産業を担う、九州・沖縄の生活雑具分野のメーカー11社が、2月10、11日、福岡市中央区のアクロス福岡で独自ブランド「南の風のリビング」の発表会を開いた。これは、中小企業総合事業団が行う99年度新規成長産業連携支援事業の一つでもある。

展示されていた約九十点のオリジナル商品は、家具、建具、ガラス、い草製品、食器、寝具などで、いずれも共同開発された自然素材にこだわったものであった。二日間で約六百二十人が訪れた。

参加企業の一つである、（株）添島勲商店 佐々木徹社長にお話を伺ってみた。

統一ブランド「南の風のリビング」にはどういう特色があるのでしょうか。

「現代の暮らしに和を取り入れる工夫を提案しています。テーマは『柔（NEW）和』ですが、各社が日本の伝統的な自然素材を生かして、健康や環境に優しい製品を製作しています。」

どんな反響がありましたか。

「そうですね。最近の和への人気も手伝っていると思いますが、かなりの手応えがありました。疲れる時代にあって、落ち着きのある空間、そして人をくつろがせる、自然素材を生かした製品は今求められていると思います。会場を訪れた女性の一人からは『ほっとする空間に出会えた』との声も聞かれました。」

なるほど、魅力的な製品がそろっていたようですね。ところで、もう少しつっこんでお聞きしたいのですが、統一ブランドのねらいはどこにあるのでしょうか。

「11社の異業種が集まった、南の風のリビングという統一ブランドによって、新たな販売業態をつくるのが狙いです。新たな組織で新しいルートを開発し、販売活動を行いたいと願っています。既存のルートだけではどうしても行き詰まってしまいます。不況の時代には特にそうです。それに、これは魅力的な新商品開発とも密接な関係があります。最終ユーザーに届く前に、そうした商品を積極的に受け入れる販売ルートがどうしても必要なのです。販売ルートづくりは、人を魅了できる商品づくりに不可欠であると思っています。」

そうですか。では、具体的にどのような販売戦略があるのでしょうか。

「ネット販売や通販にも関心があります。通販では、女性誌「家庭画報」を発行する世界文化社（東京）の夏のカタログ（発行部数二十万部）に掲載が決定していますし、西部ガスの関連会社・西部ガスリビング（福岡市）の通信販売雑誌（七月号）の掲載も決まっている。また、七月には大分市の百貨店トキハで展示販売を行います。さらに近い将来ホームページを設け、ネット販売も始める方針です。」

さて、添島勲商店について、少しお伺いしますが、やはり伝統的な自然素材を生かした商品づくりに力を入れておられると聞いていますが・・。どんな商品があるのでしょうか。

「減農薬栽培のい草を使い、昔

柔(NEW)和

ながらの染土だけを使った畳表はその一つです。

本来い草に使う農薬の量は、米などに比べてずっと少ないのですが、やはりメーカーとして、ユーザーのことを考えると、より少なくしたいと思います。減農薬栽培する農家と契約し製作しています。佐賀の検査機関にサンプリングしたものを定期的に出し、チェックを続けています。」

昔ながらの染土だけを使った着色についてはどうですか。

「着色剤のことですね。これは必ずしも農薬ほど人体に害があるとも思いません。しかし、畳表を長く美しく使う観点では、好ましくありません。2、3か月すると日焼けて、安っぽい色になってしまいます。意味がないのです。その点伝統的な泥染めしただけの畳表は長く美しい趣を保ちます。そして昔ながらの古代色、利休色ともいいますが、こうした自然の色合いこそが、人を『癒す』ものだと思います。伝統的な文化に帰りたいと思いますね。今後こうした健康畳の生産量を増やしていきます。」

い草業界は価格の安い中国産に押され、国内生産は減少しているといわれていますが、今後どのような対応が必要なのでしょうか。

「確かに中国産の大量輸入は、い草産地に大きな打撃を与えています。相場の変動で価格も不安定になっています。しかし、今の時代こそ、安定した、い草商品が本来持っている値打ちを育てていく必要があると思います。そのためには、冒頭にもいいましたが新たな販売ルートの開発、それに伴う魅力あふれる商品開発が必要だと思います。そして、その魅力的な商品には、人を癒せるような自然素材、デザインが求められているのではないでしょうか。」

ありがとうございました。